

タイ陶芸技術者受け入れ及び陶炎祭での展示支援

【内 容】

笠間市では、陶芸分野の交流や協力を目的として「笠間焼国際交流事業」を行っており、その一環として当センターにおいて、成形や釉薬、焼成等についての技術研修受け入れを行いました。

受入期間：平成 28 年 5 月 9 日（月）から 13 日（金）

受入者：タイ陶芸技術者 9 名

なお、前年度に笠間焼協同組合から技術者をタイへ派遣しており、その成果としての展示が第 35 回陶炎祭会場で紹介があり、このディスプレイの支援も行いました（図 1）。



図 1 ブース展示風景

■ろくろ成形

成形の基本である土殺し、芯出しを中心に小鉢、飯碗のろくろ成形及び化粧掛けや刷毛目、飛鉦、印花等の加飾技法を実演指導し、上級者から要望があった嘯裂（しょうれつ）技法、崩し技法も行いました。とくに、急須の取っ手や注ぎ口角度、茶漉し穴明けに興味注がれていました（図 2）。



図 2 ろくろ指導

■釉薬

釉薬原料の性質や成分、元素組成等の重要性をはじめ、このための三角座標による調合試験方法を指導しました。また、タイではマカデミアナッツを生産しており、この殻灰の実現可能性についても検討したところ、趣があり実用的な釉薬が得られることが分かりました（図 3）。



図 3 釉薬指導

■焼成

日本製陶芸窯は、焼成雰囲気調整によりさまざまな焼き味であることが魅力であり、この構造や炉材等の違いを指導しました。

■講評

素材特性である可塑性や他の芸術と異なる本質、オリジナル表現のための文化や個性の重要性を解説し、本受け入れでの習熟度からタイの陶芸産業の可能性を示唆しました。あらゆる分野の良い作品を鑑賞し、日々センスを鍛えることの必要性を学んだ様子でした（図 4）。



図 4 講評

■今後

笠間市や笠間焼協同組合と連携し、マカデミアナッツ殻灰の実用化や製品化の支援を行う予定です。

基礎となった事業

平成 28 年度 試験研究指導費（設備使用、技術相談）

現在の担当部門

笠間陶芸大学校	学 校 長	金子 賢治	TEL:0296-72-0316
	副 校 長	佐藤 茂	
工芸・材料技術部門	首席研究員	小島 均	
	技 師	吉田 彩美	
人材育成部門	主任研究員	常世田 茂	
	講 師	根本 達志	